

【中学年部会】

1. 研究テーマについて

「自ら解決する児童」を育てるためには、既習事項を活用しながら考えられるようにすることが重要である。そこで中学年分科会では、既習事項をどのように生かせるように配慮するか、また、ここで学んだことをさらに生かせるようにするためにはどうしたちよいかについて検討した。そして、「図形の面積は単位面積のいくつ分かを調べることで数値に表せる」を十分に実感させることが大切であり、そのためには、「自分で任意単位を見つけ用いる」体験が重要であると考えた。その際「なぜ、単位面積が必要なのか」「なぜ、正方形が便利なのか」という2点を児童に考えさせ、そのよさを十分に味わわせることで、児童が新しい「面積」という概念を、より深く理解できると考えた。以上のような指導の重点を達成するために次のような工夫を行なった。

①課題の工夫

図形を6種類にし、組合せていくことで直接比較や間接比較では比較が困難な形の図形を作り出すことができるようにした。また、ゲーム化により児童への意欲づけをはかった。

(5)本時の展開（第1次 第1時）

	学習活動（教師の主な発問）と予想される児童の反応	指導上の留意点
問題把握	1. 広さ作りゲームをして、その広さを競うことを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">— 広さ作りゲーム — 色画用紙をたくさんつないで広い形を作ろう。 1番広い班が優勝です。</div>	・6種類の色画用紙を提示し、形を確認する。

②単位を自分で見つけていく

児童が自由に単位面積を決め、面積を比較する問題場面を設定した。さらに、児童がより自由に単位面積を考えられるように、正方形や長方形以外の図形も積極的に扱った。

③既習事項を生かす

「直接比較→間接比較→任意単位による測定→普遍単位による測定」という宇宙の過程が生かせるようにした。

2. 研究授業

授業者

講師

(1) 日時 平成8年10月9日

(2) 単元名 面積（4年）

(3) 指導計画（12時間）

第1次 広さくらべ（3時間）

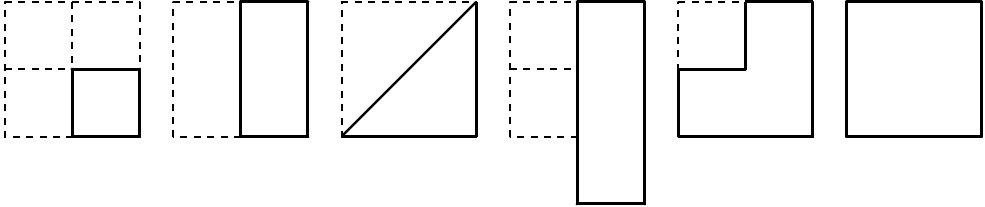
第2次 正方形や長方形の面積（3時間）

第3次 大きな面積の単位（5時間）

第4次 まとめ（1時間）

(4) 本時の目標

- ・広さは、もともになる大きさのいくつ分とみて、数値で表せることに気づく。

	<p>T：ルールの説明をします。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>正方形 長方形 直角二等辺 長方形 く字形 正方形</p> <p> (小) (小) 三角形 (大)</p>  </div>	
	<p>2. 広さ作りの作戦を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広さ作りの見通しをもたせる。
	<p>3. 広さ作りゲームをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班で1つの広さを作ることを確認する。
	<p>4. 広さの表し方を考える。</p> <p>T：どの班のものが広いか、どうやって比べたらよいでしょう。</p> <p>C：重ねて比べる。</p> <p>C：種類ごとの枚数を数える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重ねて直接比較できないことを押さえる。 ・6種類の形の広さの相互関係に目を向けさせる。 ・1種類の形をもとにして数値化させる。
	<p>5. 数えた結果を発表し合う。</p> <p>T：各班の結果が一目でわかるのはなぜですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表に数を記入する。

(6) 協議会より

- ・6種類の形はどれを単位にしても測れ、よく工夫されている。
- ・体験を十分にさせるには1時間では短いのでは。
- ・子どももやる気になり、等積変形や任意単位の考え方も出てきて、よい課題だった。

(7) 講評

- ・任意単位のよさに迫ることによって普遍単位のよさにも気づくことができる。ポイントを絞った指導計画を立て持続していくことが重要。
- ・広さを子どもはどう捉えているか。実際を知り、指導の手立てを。